

2020年度まちづくりネットモニター第11回調査結果
 テーマ「自然環境・生物多様性について」



全ての生物には個性があり、お互いにつながりを持っていることを「生物多様性」といいます。わたしたち人間を含むすべての生き物は、生物多様性をもたらすたくさんの自然環境の恵みによって、お互いの「いのち」と「暮らし」を支えあっています。

また、それぞれの地域には特有の自然環境や風景があり、それが地域の文化と結びついて地域に固有の風土を形成しています。

魅力的な地域づくりを進めていくためには、こうした自然的・社会的な条件に応じた生物多様性をもたらす自然環境を保全するための取り組みが必要です。

そこで、市民の皆さまが自然環境と普段どのように接し、どのように評価・保全しているか等を把握し、本市の自然環境・生物多様性に関する施策を推進するための検討資料とするため、アンケートを実施しましたのでその結果についてお知らせします。（環境政策課）

調査概要

- 調査期間 令和2年11月4日(水)～11月13日(金) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 318名 (男性 151名 女性 167名)
- 回答率 88.3%

【分析】

≪回答者内訳：年代≫

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	6	5	15	30	33	15	40	7	151
女性	8	9	40	55	37	15	2	1	167
合計	14	14	55	85	70	30	42	8	318

≪回答者内訳：地区≫

地区	旧市	富田	大槻	安積	三穂田	逢瀬	片平	喜久田	日和田	富久山	湖南	熱海	田村	西田	中田	市外	合計
男性	66	19	14	23	1	0	2	7	3	13	0	0	3	0	0	0	151
女性	67	13	24	16	1	3	3	7	2	16	2	3	4	3	0	3	167
合計	133	32	38	39	2	3	5	14	5	29	2	3	7	3	0	3	318

≪生物多様性について≫

「生物多様性」という言葉について、全体の7割程度が「知っている」「聞いたことがある」と回答し、「生物多様性」の危機について、全体の7割程度が「知っている」「聞いたことがある」と回答した(問5・6)。生物多様性保全の取り組みを重点的に行うべき地域について、6割以上が「人と自然が関連し合う里地里山」と回答し、産業発展との両立については、7割以上が「産業発展も生物多様性もともに重要であり両立させる方法を考えるべき」と回答した(問7・8)。

「見かけなくなった」動植物の上位に、「トンボ(31件)」「ホタル(29件)」が挙げられ、「見かけるようになった」動植物の上位に、「カラス(37件)」「セイタカアワダチソウ(23件)」が挙げられた(問9・10)。

今後市が力を入れるべきこととして、「環境教育」「普及・啓発」が全体の5割以上であった(問15)。市内における自然環境保全活動について、全体の8割以上が「趣旨に賛同できれば」も含め、「参加したい」と回答した(問16)。

≪外来種について≫

外来種については、国内由来のものも含まれていることを、全体の8割が「知っている」「聞いたことがある」と回答した(問11)。

外来種への取り組みとしては、「防除・駆除」が46.5パーセント、「野外に放すこと、植栽等の禁止」が26.7%であった(問12)。

【考察】

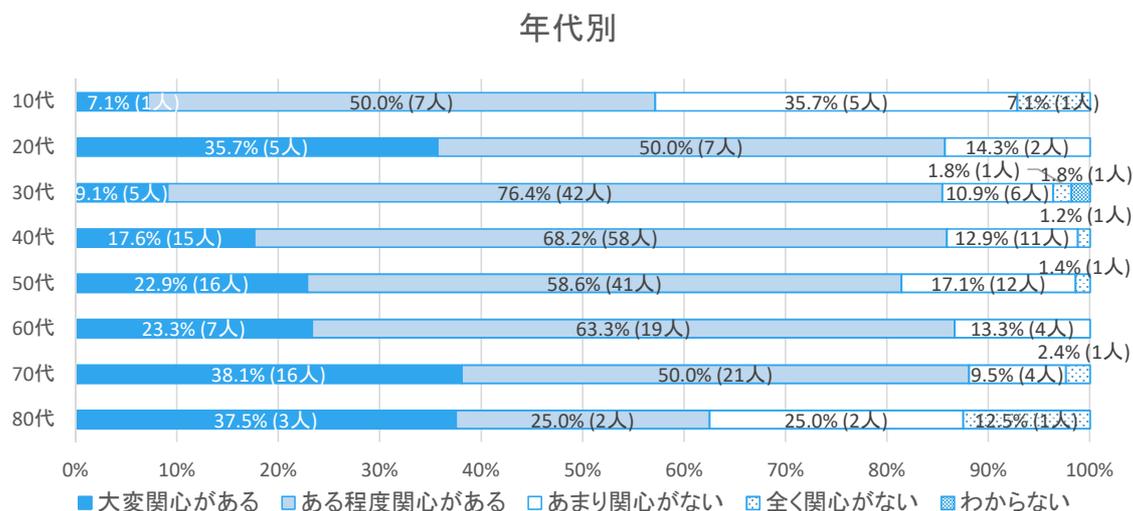
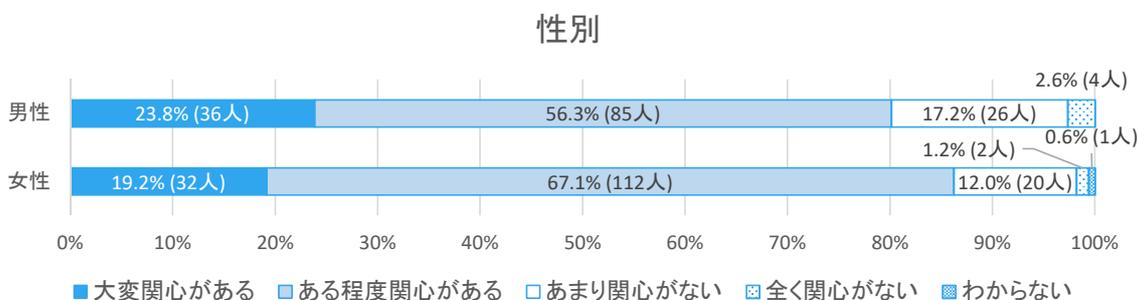
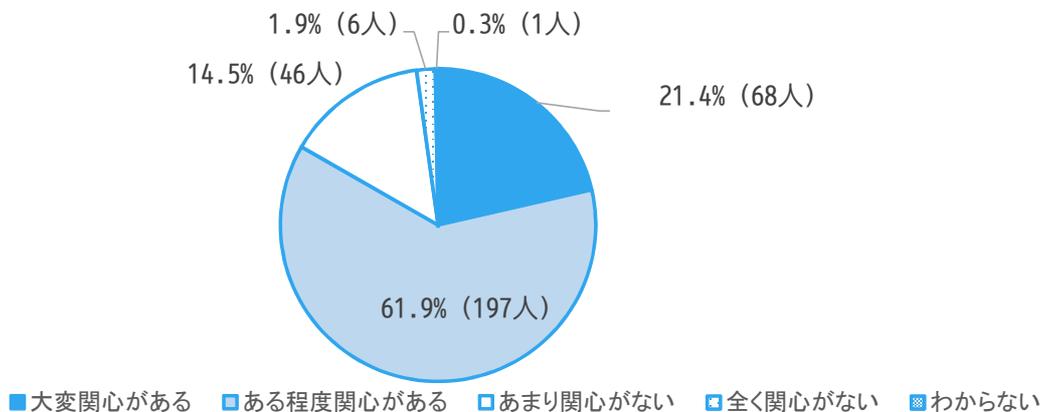
・「生物多様性」の危機及び国内由来のものも含めた外来種問題については、知っている、聞いたことがある方が多く、自然環境についての関心が高いことが推測できる。外来種については、むしろ「見かけなくなった」と思う動植物についての回答に「ザリガニ」が10件あるなど、外来種が生活に定着しているとも推測できる。

・生物多様性保全の取り組みを重点的に行うべき地域として「人と自然が関連し合う里山」との回答が多く、また、「見かけなくなった」「見かけるようになった」動植物は生活に身近な個体名が比較的多くみられ、人と自然が共存する地理的特徴を多く持つ郡山市において、住民の生活に密接に関係する生物の多様性及び外来種について、環境教育及び普及・啓発活動に取り組んでいくことが重要と考えられる。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第1章 郡山市の生き物の環境について

問1 あなたは、自然環境についてどの程度関心がありますか？（1つ選択）
 （回答者：318人）

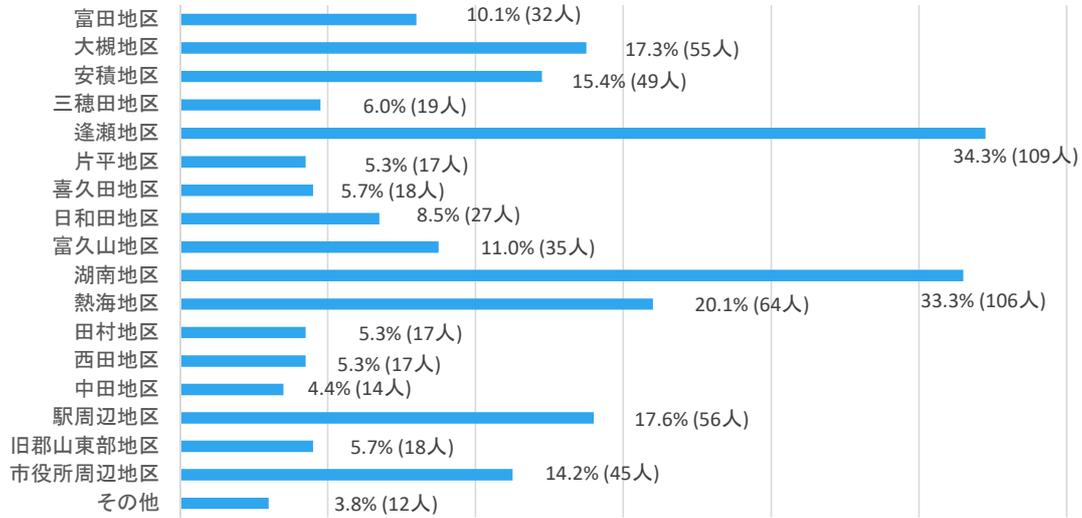


全体の21.4%が「大変関心がある」、61.9%が「ある程度関心がある」と回答し、両方で全体の8割を超えており、「自然環境」に対する関心は比較的高いことが読み取れる。

※回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

問2 自然環境のうちあなたが最も愛着を持つ地域はどこですか？
(3つまで選択可)

(回答者：318人)



《参考：回答者在中地区ごとの回答》

		回答者住地区																合計
		旧市	富田	大槻	安積	三穂田	逢瀬	片平	喜久田	日和田	富久山	湖南	熱海	田村	西田	中田	市外	
最も愛着を持つ地区	富田	18	3	2	0	1	0	0	2	1	3	0	0	0	1	0	1	32
	大槻	23	6	9	4	0	0	0	2	1	7	0	0	3	0	0	0	55
	安積	20	7	9	7	1	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	49
	三穂田	10	2	1	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	19
	逢瀬	48	9	14	17	0	1	2	5	1	5	1	2	3	1	0	0	109
	片平	6	1	2	2	0	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	17
	喜久田	7	1	3	0	0	0	1	0	0	4	0	0	1	1	0	0	18
	日和田	9	4	5	1	0	0	1	2	0	4	0	0	0	1	0	0	27
	富久山	10	4	5	5	0	1	2	3	1	4	0	0	0	0	0	0	35
	湖南	45	9	10	15	1	2	2	4	1	7	2	2	3	1	0	2	106
	熱海	23	6	7	11	0	0	1	4	2	5	2	0	1	0	0	2	64
	田村	5	4	2	1	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	0	17
	西田	5	1	2	7	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	17
	中田	6	2	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	14
	駅周辺	27	6	8	9	0	0	0	1	0	4	0	1	0	0	0	0	56
	旧郡山東部地区	4	1	0	7	0	0	0	1	0	2	1	0	1	0	0	1	18
	市役所周辺地区	26	5	4	4	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	45
その他	4	2	1	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	12	
合計	296	73	84	95	3	7	10	33	10	58	6	7	16	6	0	6	710	

◆「その他」を選択した方の主な意見

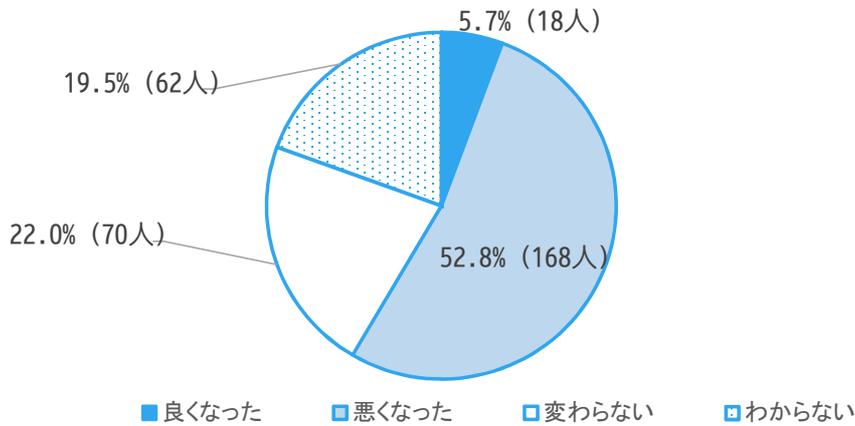
- ・開成地区、緑ヶ丘地区
- ・菜根地区
- ・麓山周辺
- ・並木、西ノ内周辺
- ・五百淵公園
- ・久留米
- ・小原田
- ・市全体
- ・旧市内公園

「逢瀬地区」「湖南地区」「熱海地区」との回答が多かった。次いで多い回答が「駅周辺地区」であった。

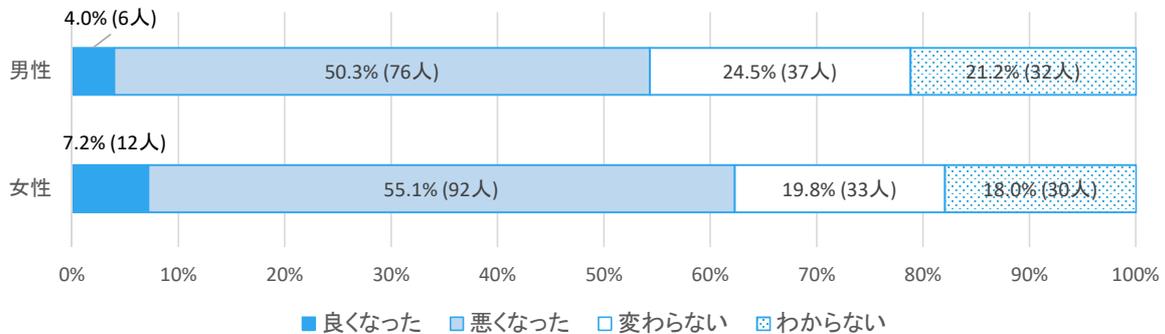
回答が多かった3地区については、それぞれ森林が多く、また、逢瀬地区には逢瀬公園、浄土松公園が、湖南地区には猪苗代湖が、熱海地区にはふれあい牧場と、それぞれに市民が余暇を過ごす場所があるため、自然環境に愛着がある地区として回答したものと読み取れる。

問3 あなたの身近な自然環境について、以前に比べて（幼少の頃と比べて）どのように変わったと思いますか（1つ選択）

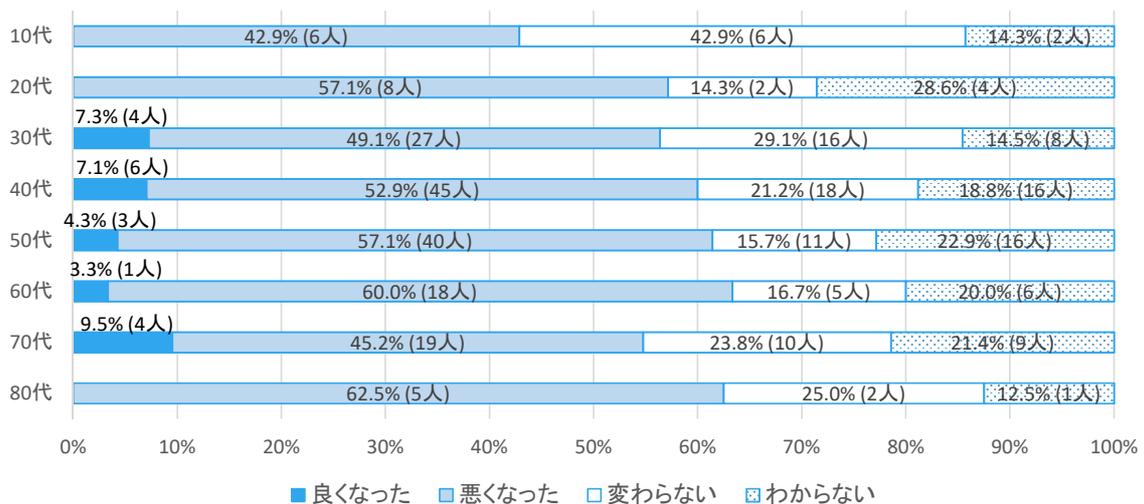
（回答者：318人）



性別



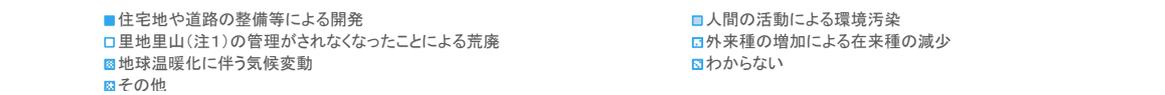
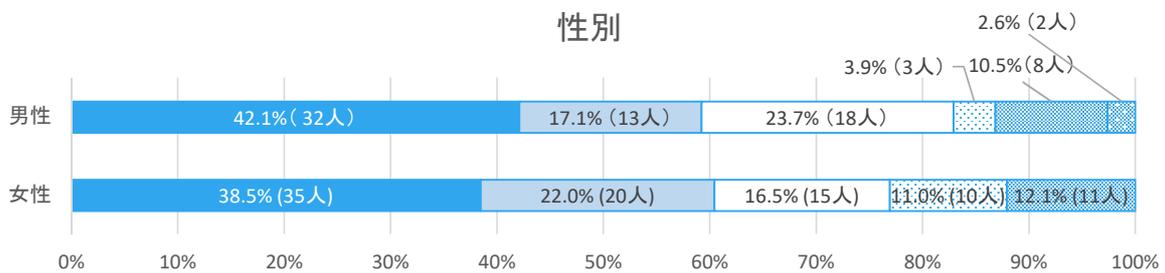
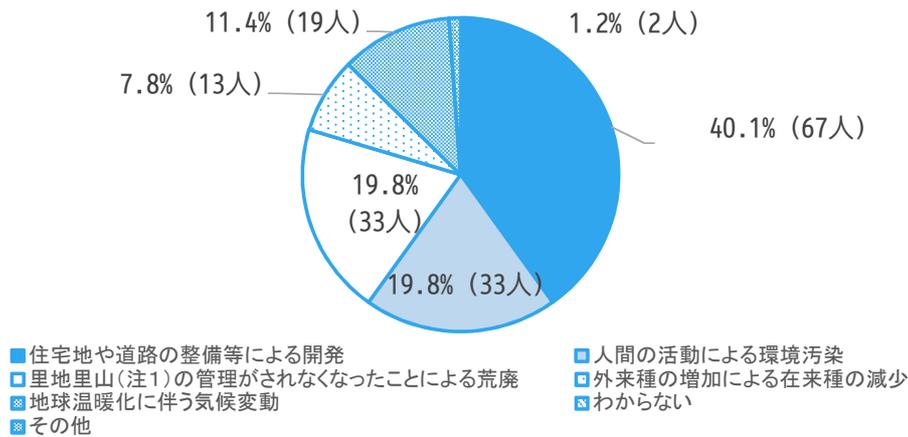
年代別



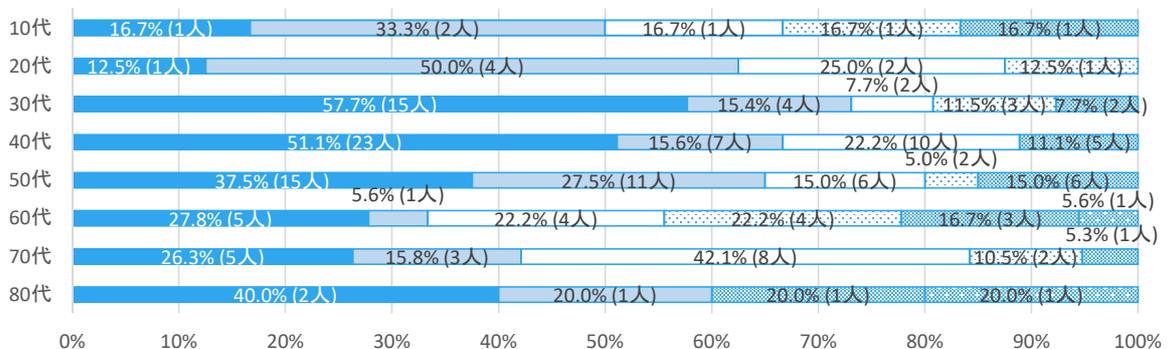
全体の52.8%が「悪くなった」と回答している。全体の41.5%が「変わらない」「分からない」と回答しており、「良くなった」との回答は5.7%である。なお、20代以下での「良くなった」との回答は全く無かった。比較的多くの方が身近な自然環境は悪くなったと思っていることが読み取れる。

問4 問3で「悪くなった」を選択した方にお伺いします。悪くなったと思う理由は何ですか？（1つ選択）

（回答者：167人）※1人未回答



年代別



◆ 「その他」を選択した方の主な意見

- ・整備されすぎた公園

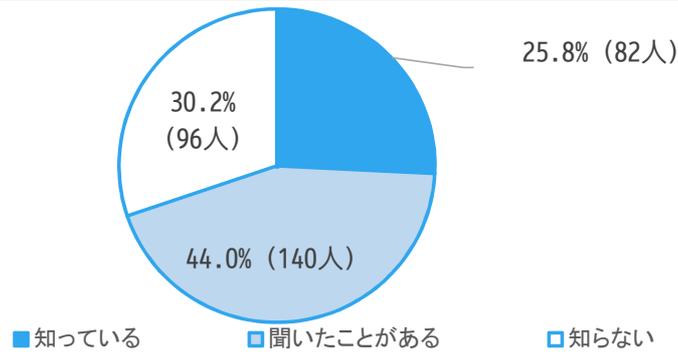
全体の40.1%が「住宅地や道路の整備等による開発」、19.8%が「人間の活動による環境汚染」、19.8%が「里地里山の管理がされなくなったことによる荒廃」と回答しており、人間の活動による影響と思う回答が約7割であった。

(注1) 【解説】「里地里山」とは？

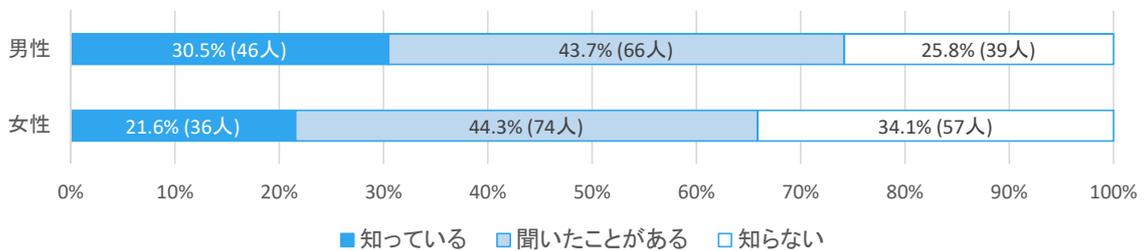
原生的な自然と都市との間に位置し、長い歴史の中で人間のさまざまな働きかけを通じ、集落とそれを取り巻く二次林、農地、ため池、草原等で構成された地域

問5 「生物多様性」という言葉をご存じですか？（1つ選択）

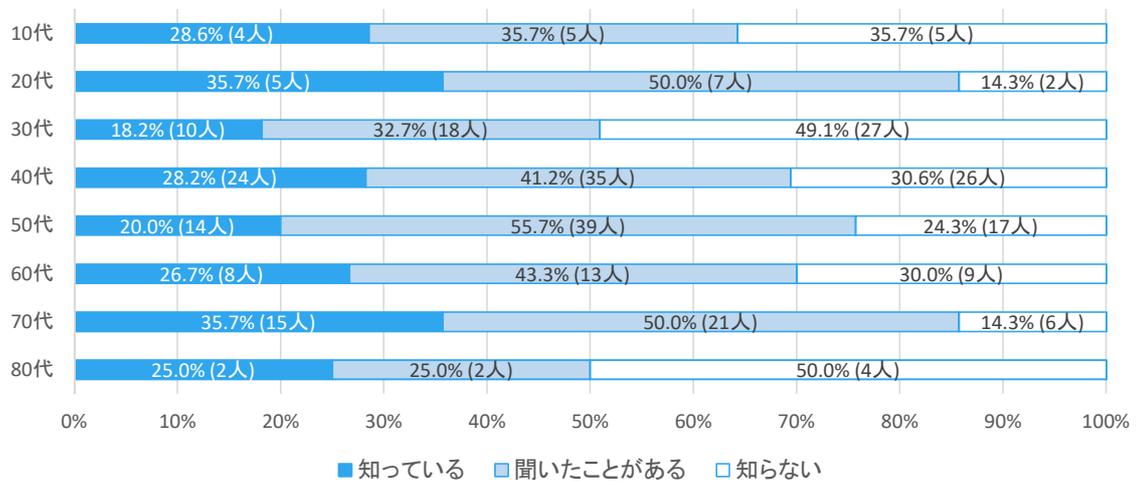
（回答者：318人）



性別



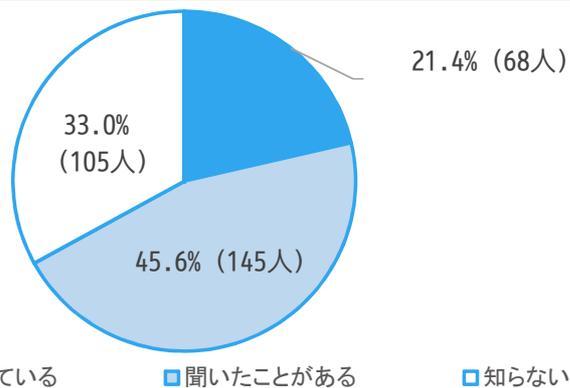
年代別



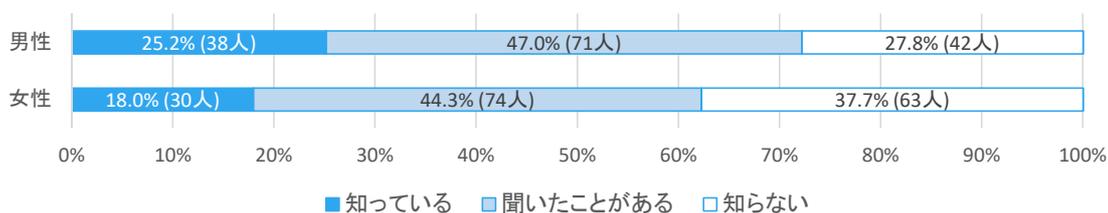
全体の25.8%が「知っている」、44.0%が「聞いたことがある」と回答し、両方で全体の7割程度であり、多くの方が「生物多様性」という言葉を少なくとも聞いたことがあるということが読み取れる。

問6 「生物多様性」の危機(注2)についてご存知ですか?(1つ選択)

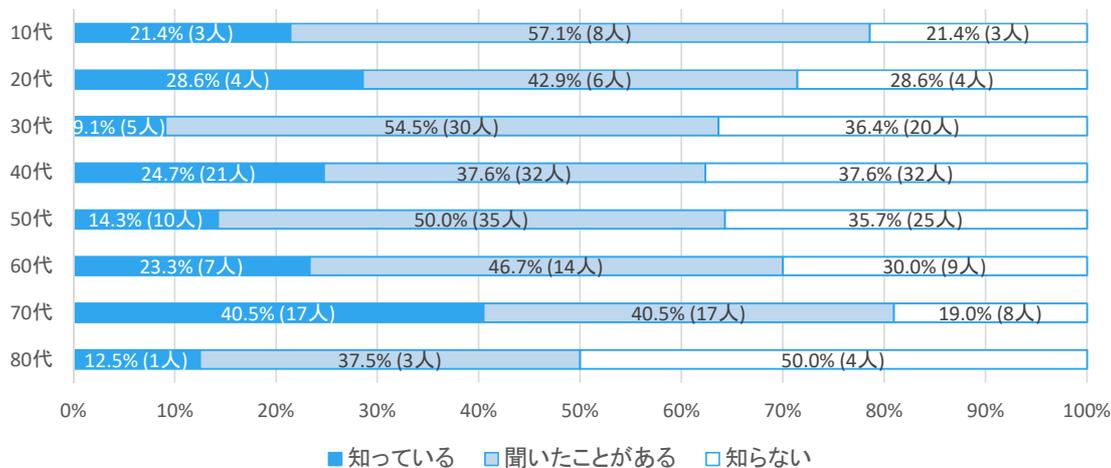
(回答者: 318人)



性別



年代別



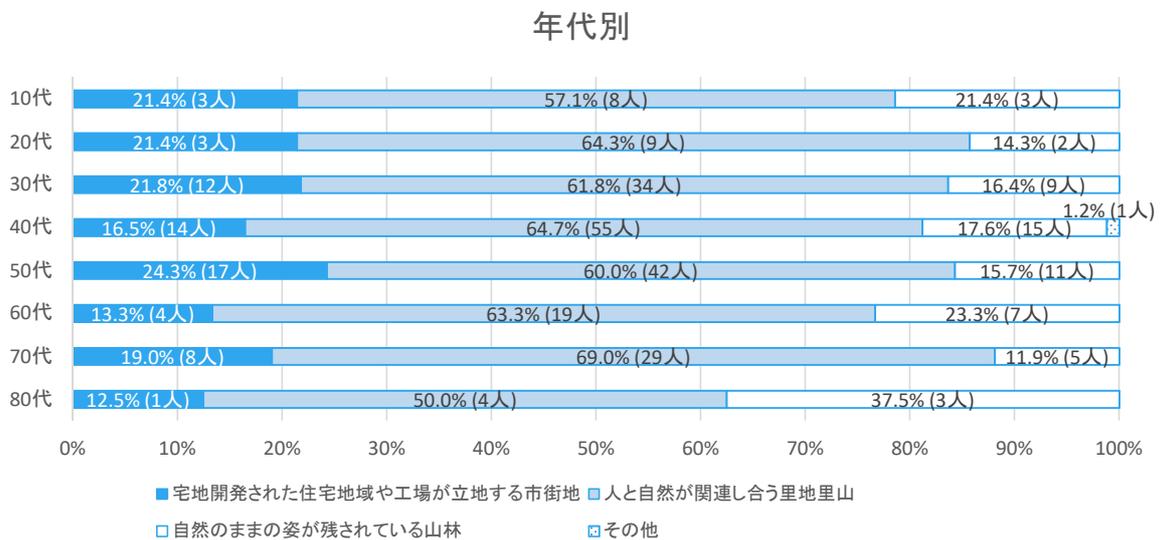
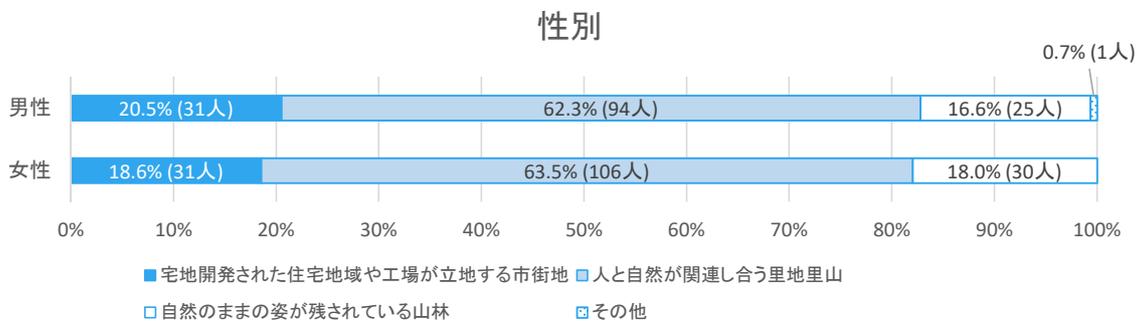
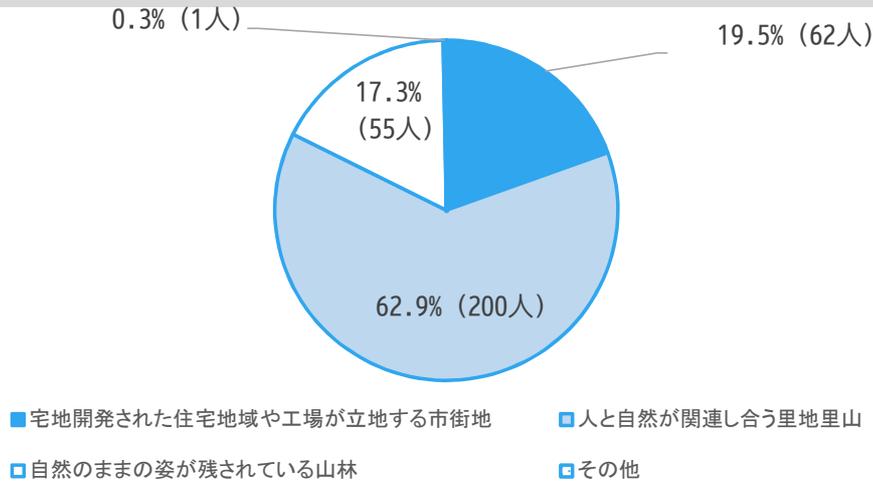
全体の21.4%が「知っている」、45.6%が「聞いたことがある」と回答し、両方で全体の7割程度であった。

(注2) 【解説】「生物多様性の危機」については、4つの危機があります。

- 第1の危機 人間活動による危機
乱獲、開発による生息環境の悪化・破壊
- 第2の危機 自然に対する働きかけの縮小による危機
二次林や採草場が利用されなくなったことによる生態系バランスの崩壊
- 第3の危機 人間により持ち込まれたものによる危機
外来種による在来種への影響
- 第4の危機 地球環境の変化による危機
地球温暖化に伴う気候変動による影響

問7 郡山市には、市街地、里地里山及び山林等、多様な特性を持つ地域があります。生物多様性保全の取り組みを行う上で、重点的に行わなければならないと思う地域はどこですか？（1つ選択）

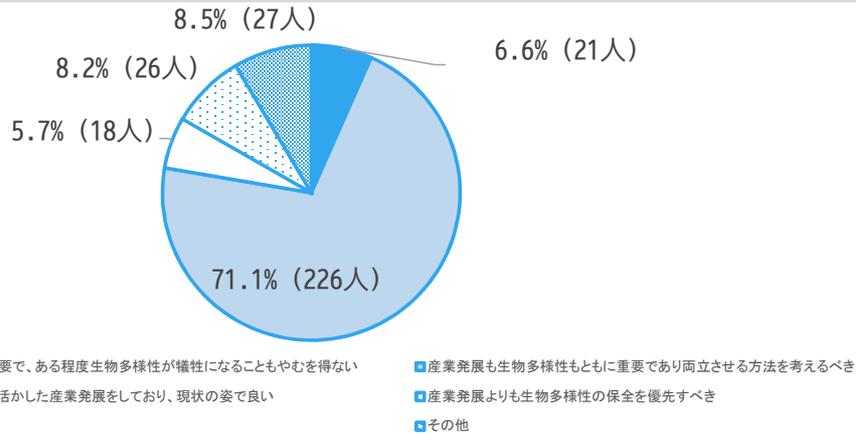
（回答者：318人）



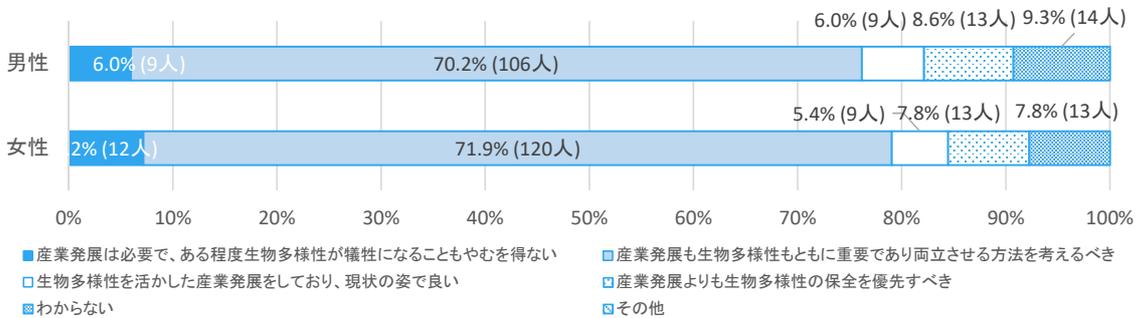
一番多い割合である62.9%が「人と自然が関連し合う里地里山」と回答した。「まち」と「里地里山」で、人間が住むところにおいて対策を重点的に行わなければならないと思っていることが読み取れる。

問8 住宅用地や商工業用地などの開発の増加により、生物多様性が失われるケースが見られます。産業発展と生物多様性の両立についてどのようにお考えですか？
(1つ選択)

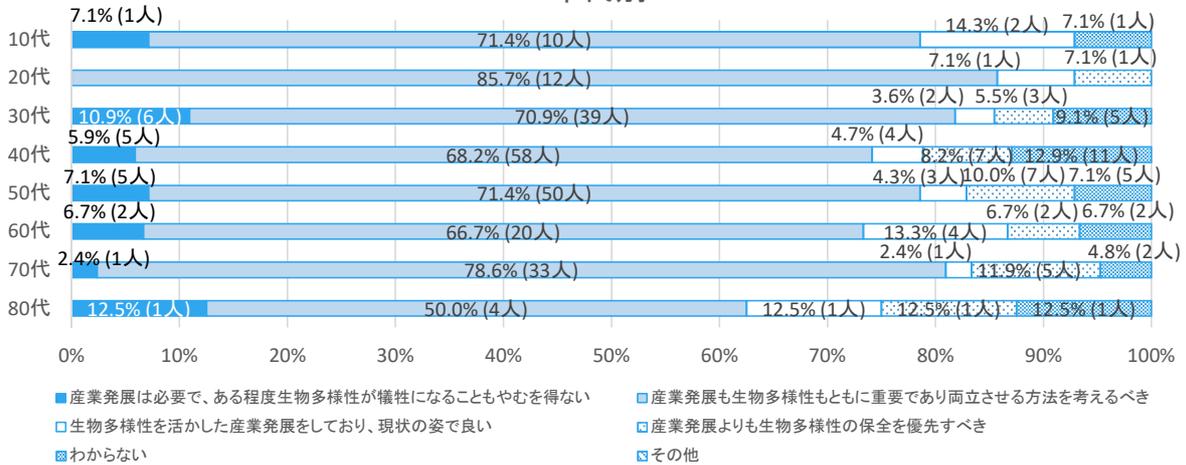
(回答者：318人)



性別



年代別



「産業発展も生物多様性もともに重要であり両立させる方法を考えるべき」との回答が全体の7割以上であった。
産業発展あるいは生物多様性どちらかのみを重視するということではなく、どちらも両立を考えるべきと思う方が多数であった。

問9 普段の生活の中で、お住まいの地域に限らず、以前に比べて(幼少の頃と比べて)見かけなくなったと思う動植物について、「名称(略称)、場所」をお答えください。
(自由記述・複数可) (回答者：199人)

種類別

種類別(広義)	回答数	割合	主なもの
昆虫等	153	76.9%	トンボ(31)、ホタル(29)、イナゴ(18)、セミ(18)
鳥類	73	36.7%	カッコウ(20)、スズメ(15)、キジ(10)、ツバメ(6)
魚類	34	17.1%	メダカ(9)、ドジョウ(8)
植物類	34	17.1%	ススキ(6)、シロツメクサ(3)
両生類	25	12.6%	カエル(21)、(オタマジャクシ(3))
哺乳類	14	7.0%	コウモリ(5)、タヌキ(2)
爬虫類	12	6.0%	ヘビ(11)
甲殻類	11	5.5%	ザリガニ(10)
貝類	3	1.5%	タニシ(2)

個別

数	割合	種類	主な地区	数	割合	種類
31	15.6%	トンボ	市内全域・安積町	8	4.0%	チョウ、ドジョウ
29	14.6%	ホタル	市内全域・田村町	7	3.5%	カブトムシ
21	10.6%	カエル	市内全域・安積町	6	3.0%	ススキ、ツバメ
20	10.1%	カッコウ	富田町・安積町	5	2.5%	川魚、コウモリ
18	9.0%	イナゴ	市内全域	4	2.0%	ハクチョウ、ハト
18	9.0%	セミ	安積町・大槻町	3	1.5%	アゲハチョウ、アメンボ、ウグイス、オタマジャクシ、クワガタ、ゲンゴロウ、シロツメクサ、バッタ、フナ、虫
15	7.5%	スズメ	市内全域	2	1.0%	オニヤンマ、カマキリ、カミキリムシ、クローバー、小魚、タニシ、タヌキ、タンポポ、ツクシ、トノサマバッタ、ナマズ、野良犬、レンゲ、鳥
11	5.5%	ヘビ	安積町	1	0.5%	アカゲラ、アリジゴク、イタチ、イタドリ、イチヂク、オイカワ、オオイヌフグリ、オナモミ、柿、カジカ、カタツムリ、カナヘビ、カモ、カラス、カワセミ、キツツキ、キツネ、キノコ、クイナ、栗、クワアゲハ、コオロギ、サワガニ、シオカラトンボ、シジュウカラ、シラサギ、セイタカアワダチソウ、セリ、タガメ、どんぐり、ニッコウキスゲ、ニホンタンポポ、ネズミ、野良猫、春蘭、ヒキガエル、フクロウ、ミツバチ、ムクドリ、ムササビ、モズ、野鳥、ヤマツツジ、ヨモギ、ワレモコウ、住宅地内の植物
10	5.0%	アカトンボ	大槻町			
10	5.0%	キジ	喜久田町			
10	5.0%	ザリガニ	市内全域			
9	4.5%	メダカ	市内全域			

種類別では、昆虫等が76.9%、鳥類が36.7%であった。個別の種類別では、「トンボ」が15.6%であり、「トンボ」、「アカトンボ」、「オニヤンマ」及び「シオカラトンボ」を加えると22.1%と最も多かった。
生活の中で身近な存在である「昆虫類」「鳥類」について、減少したことが市民にとって分かりやすいことが読み取れる。

問10 普段の生活の中で、お住まいの地域に限らず、以前に比べて(幼少の頃と比べて)増えた、見かけるようになったと思う動植物について、「名称(略称)、場所」をお答えください。
(自由記述・複数可)

(回答者：174人)

種類別

種類別(広義)	回答数	割合	主なもの
鳥類	62	35.6%	カラス(37)、ムクドリ(9)
植物類	54	31.0%	セイタカアワダチソウ(23)、ブタクサ(6)
哺乳類	43	24.7%	ハクビシン(10)、イノシシ(9)
昆虫等	39	22.4%	カメムシ(16)、ハチ(4)
両生類	4	2.3%	ウシガエル(2)
爬虫類	4	2.3%	ヘビ(3)
甲殻類	4	2.3%	ザリガニ(3)
魚類	2	1.1%	ブラックバス(1)
貝類	1	0.6%	ナメクジ(1)

個別

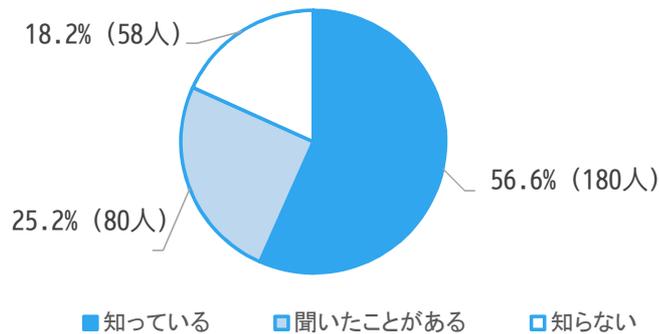
数	割合	種類	主な地域	数	割合	種類
37	21.3%	カラス	市内全域・旧市内・駅周辺・安積町・大槻町	4	2.3%	セイヨウタンポポ、タヌキ、ハチ
23	13.2%	セイタカアワダチソウ	市内全域・安積町	3	1.7%	コウモリ、ナガミヒナゲシ、ネコ、ヘビ、ザリガニ
16	9.2%	カメムシ	市内全域・安積町・大槻町・富久山町・熱海町	2	1.1%	ウシガエル、カッコウ、カワウ、クマ、クモ、ゴキブリ、雑草、スズメバチ、タカサゴユリ、ツマグロヒョウモン、ヒヨドリ
10	5.7%	ハクビシン	市内全域	1	0.6%	アゲハチョウ、アマガエル、アメリカシロヒトリ、アメリカセンダングサ、アメリカミンク、アライグマ、アレチウリ(場所未回答)、イタチ、イナゴ、ウグイス、ウミウ(場所未回答)、蚊、飼い犬、外来淡水魚、カエル、カマキリ、カメ、カワセミ、キツネ、クズ、熊、クマバチ、ケムシ、ゴマダラカミキリ、サギ、シカ、シラサギ、シロアリ、スジエビ、スズムシ、スズメ、ツバメ、テッポウユリ、ドブネズミ、鳥、トンボ、ナメクジ、ニホンカモシカ(熱海町)、野良猫、ハクチョウ、ハト、羽虫、ビーマン、ヒトスジシマカ、ヒメオドリコソウ、フェレット、ブラックバス、ポビー、ミンク
9	5.2%	イノシシ	逢瀬町			
9	5.2%	ムクドリ	市内全域			
6	3.4%	ブタクサ	安積町			
5	2.9%	外来植物				

種類別では、鳥類が35.6%、植物類が31.0%であった。個別の種類別では、「カラス」が21.3%であり、最も多く、次いで外来植物である「セイタカアワダチソウ」が13.2%であった。

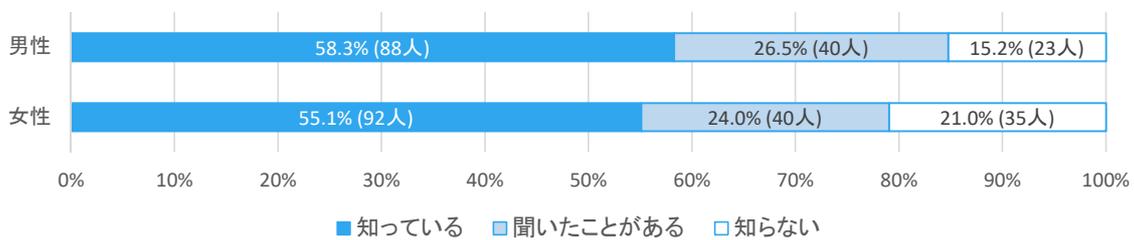
問9と比べると、「昆虫類」等の種類に属する様々な回答が集まるというよりも、「カラス」、「セイタカアワダチソウ」といった特定の生物種に対する回答が多かった。

問11 「外来種」(注3)は外国からの人為的な移動だけでなく、「国内」においての人為的な移動による生物種も含まれていることをご存知ですか？(1つ選択)

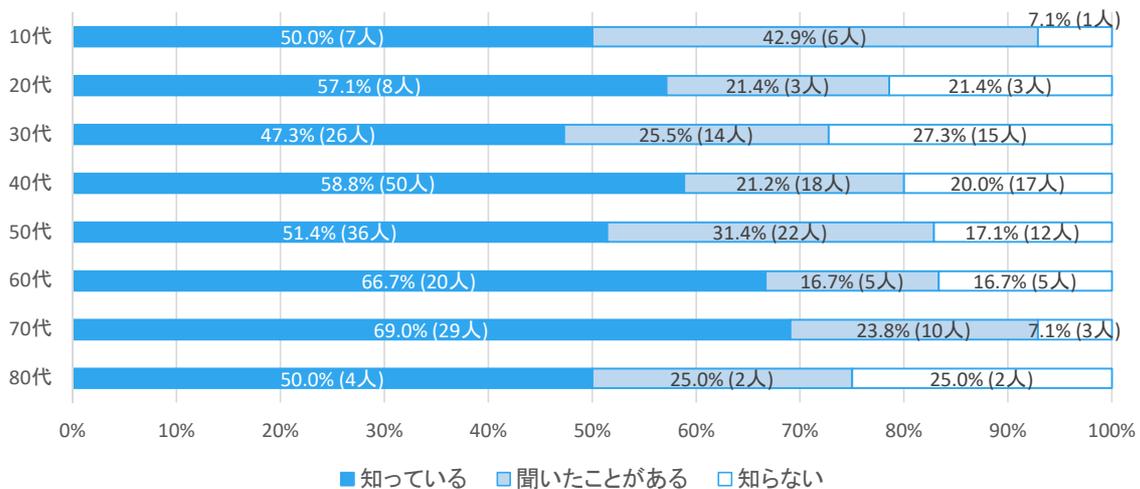
(回答者：318人)



性別



年代別



全体の56.6%が「知っている」、25.2%が「聞いたことがある」と回答し、両方で全体の8割を超えており、「国内由来の外来種」に対する関心は比較的高いことが読み取れる。

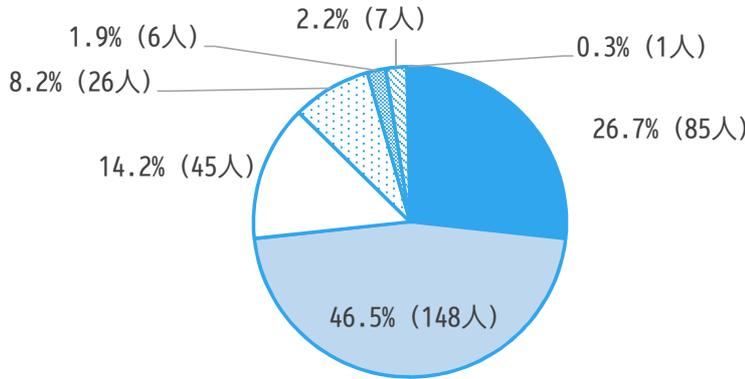
(注3) 【解説】「外来種」とは？

人為的な移動により、その生物本来の自然分布域外に生育・生息する生物種(国内外由来両方含む)。そのうち、様々な被害を及ぼす恐れのあるものが「侵略的外来種」、法律で指定された国外由来のものが「特定外来生物」である。

- 国内 ①外来種 (例、本土から琉球列島等へ移動されたニホンズツボン)
- ②侵略的外来種 (例、本土等から北海道等へ移動されたニホンイタチ)
- 国外 ③外来種 (例、アメリカザリガニ、ナガミヒナゲシ)
- ④侵略的外来種 (例、アカミミガメ、ニジマス)
- ⑤特定外来生物 (例、オオクチバス、アレチウリ)

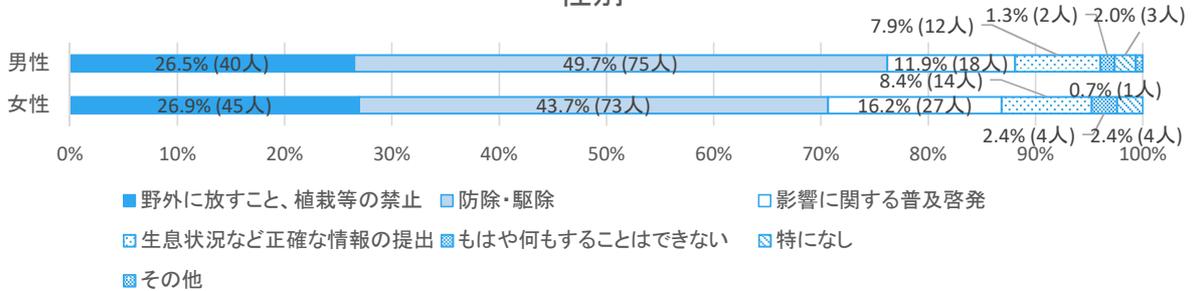
問12 外来種のうち、本来その地域で生息する野生動植物(在来種)の生存や生息を脅かすなど影響を与えるもの(オオクチバスやアレチウリなど)が問題となっています。そういった既存の生態系等に影響を与える外来種に対して、必要と思う取り組みは何ですか？(1つ選択)

(回答者：318人)

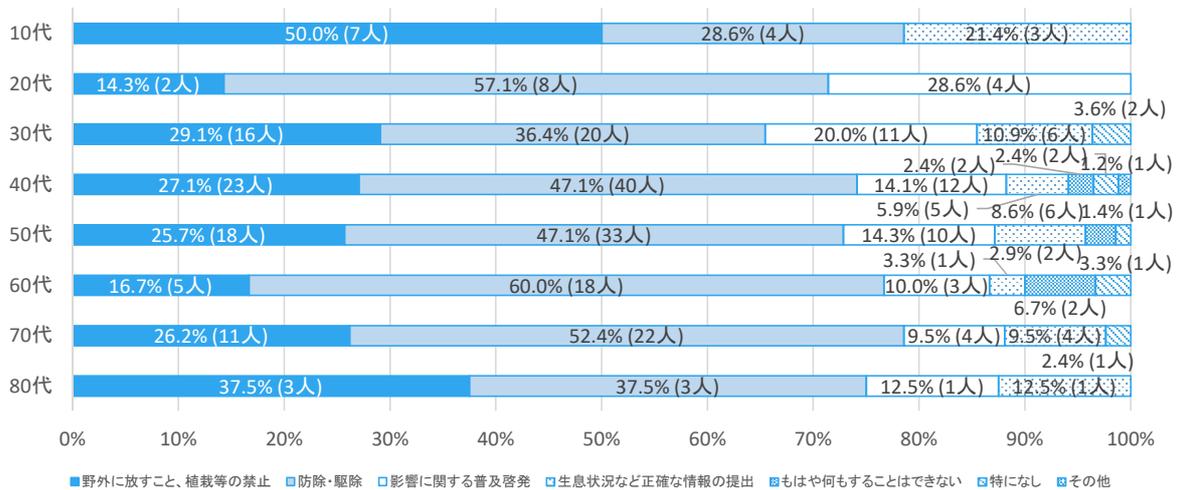


- 野外に放すこと、植栽等の禁止
- 防除・駆除
- 影響に関する普及啓発
- 生息状況など正確な情報の提出
- もはや何もすることはできない
- 特になし
- その他

性別



年代別

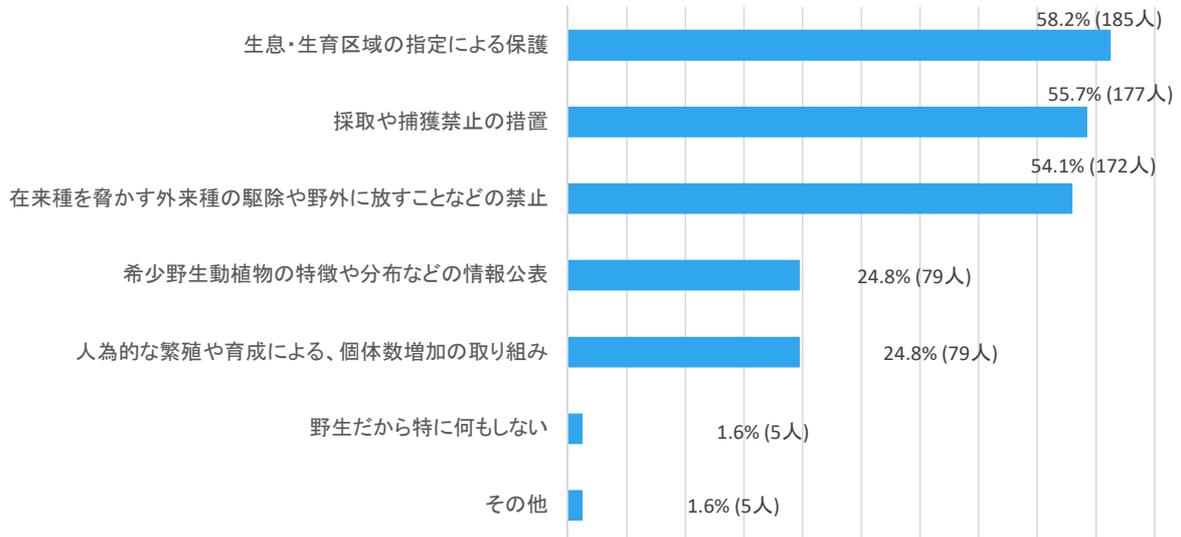


全体の46.5%が「防除・駆除」、26.7%が「野外に放すこと、植栽等の禁止」、14.2%が「影響に関する普及啓発」と回答し、外来種が定着しないようにする取り組みと、定着してしまった後の取り組み、それぞれ必要だと考えていることが読み取れる。

なお、「もはや何もすることはできない」が1.9%であり、外来種によっては郡山市内でも広く定着している現状においても、取り組みは必要だと考えられていることが読み取れる。

問13 野生動植物の中には、生息・生育する地域が限られ、個体数が少なく、絶滅のおそれがあるものがあります。そのような希少な野生動植物を保護するために、必要と思う取り組みは何ですか？
(3つまで選択可)

(回答者：318人)



◆「その他」を選択した方の主な意見

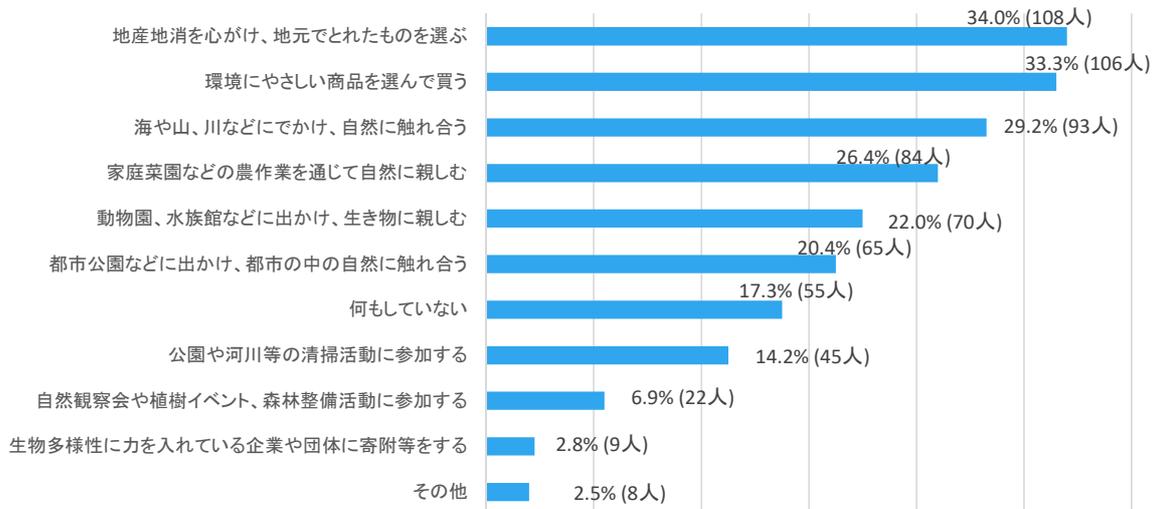
- ・周知啓蒙するのは現実的に難しいのでは。

「生息・生育区域の指定による保護」、「採取や捕獲禁止の措置」、「在来種を脅かす外来種の駆除や野外に放すことなどの禁止」に比較的多く回答があった。

問14 生物多様性の保全のために、あなたが日ごろから行っていることは何ですか？

(3つまで選択可)

(回答者：318人)



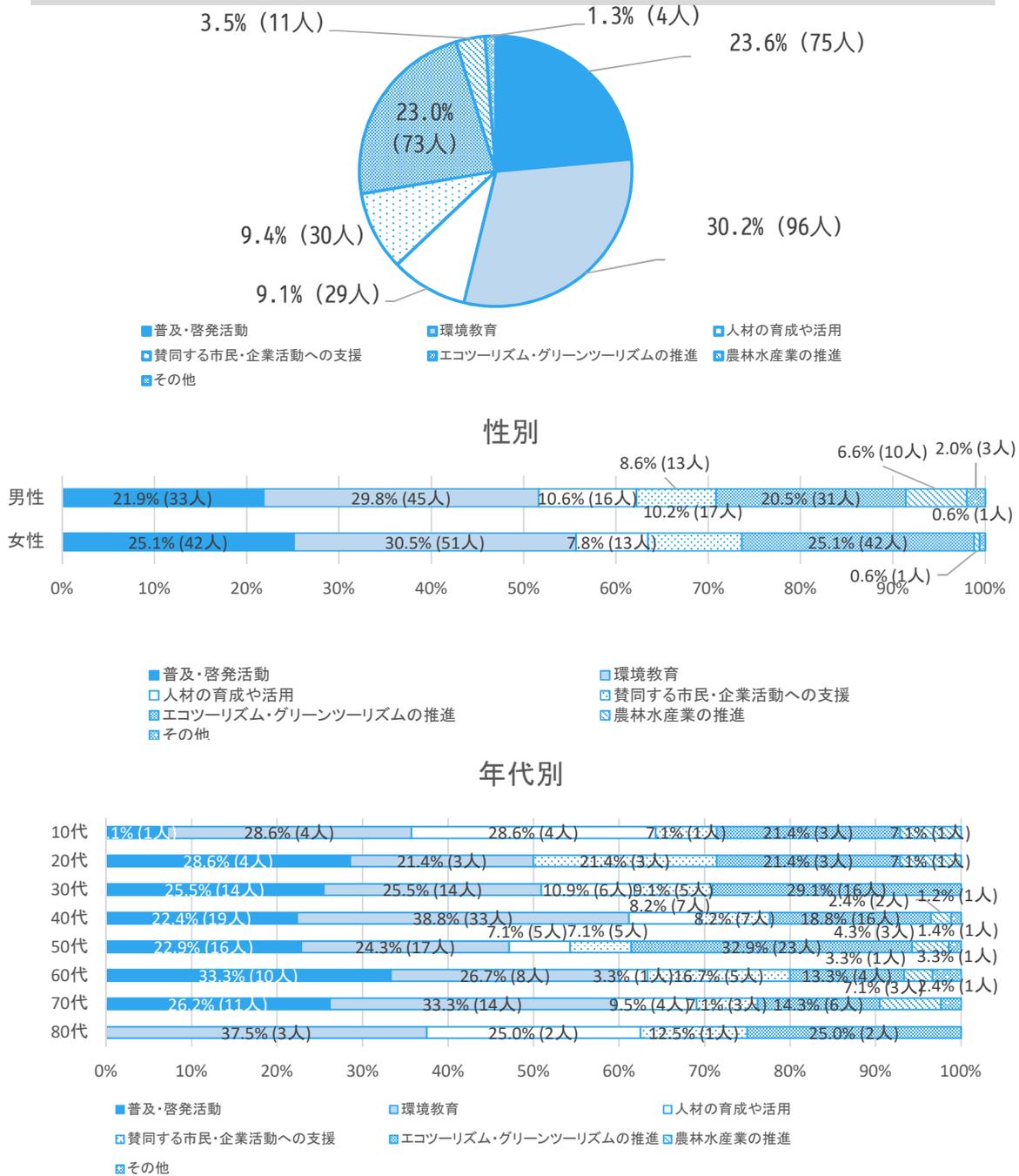
◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・自然を愛する生き方。
- ・生物多様性について書籍、インターネットで調べている。

「地産地消を心がけ、地元でとれたものを選ぶ」、「環境にやさしい商品を選んで買う」、「海や山、川などにでかけ、自然に触れ合う」といった回答が多かった。生活における消費、余暇など、身近なことから「持続可能な」取り組みを実践しているとの結果が読み取れる。

第3章 郡山市の生物多様性保全のための取り組みについて

問15 自然環境に対する市民の愛着や関心を高めるために、今後市が力を入れていくべきことは何だと思えますか？(1つ選択) (回答者：318人)



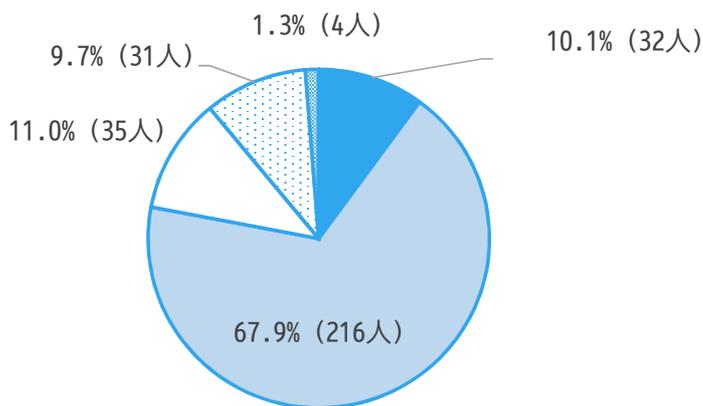
全体の30.2%が「環境教育」、23.6%が「普及・啓発活動」、23.0%が「エコツーリズム、グリーンツーリズムの推進」と回答した。

(注4) 【解説】エコツーリズム・グリーンツーリズムとは？

- ・エコツーリズム：地域固有の自然環境や歴史、文化などを対象にした観光により、自然環境の保全・保護を目指す取り組み
- ・グリーンツーリズム：緑豊かな農村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ休暇・余暇活動により、地域の活性化を目指す取り組み

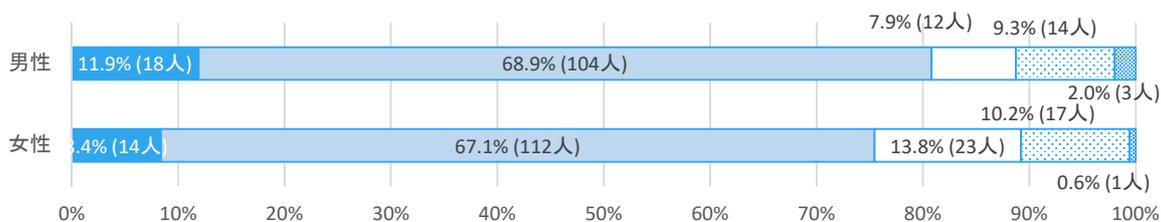
問16 市内各地で、様々な自然環境保全活動(自然観察、里山保全、植樹、希少な野生動植物の保護など)が行われていますが、これらの活動に参加したいと思いますか？(1つ選択)

(回答者：318人)



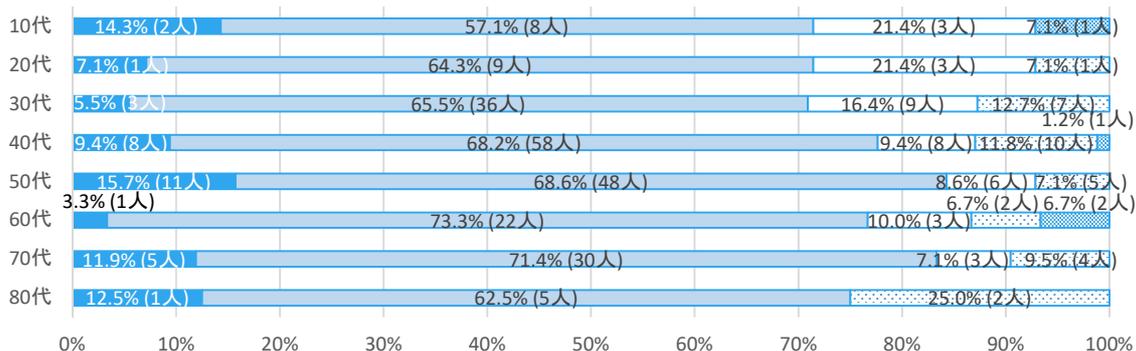
■参加したい ■趣旨に賛同できる内容であれば参加したい ■募金であれば応じたい ■参加したくない ■その他

性別



■参加したい ■趣旨に賛同できる内容であれば参加したい ■募金であれば応じたい ■参加したくない ■その他

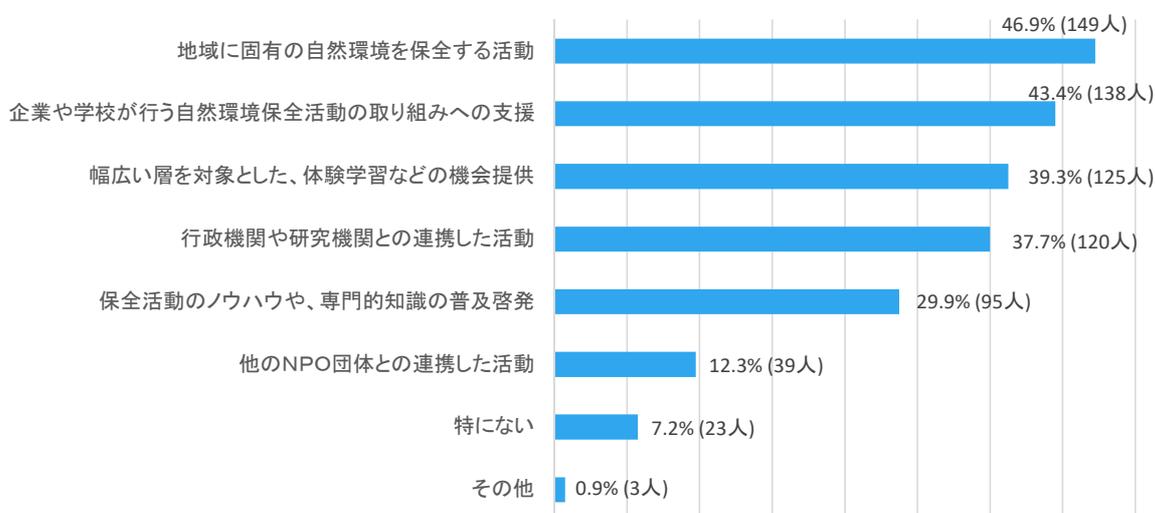
年代別



■参加したい ■趣旨に賛同できる内容であれば参加したい ■募金であれば応じたい ■参加したくない ■その他

全体の67.9%が「趣旨に賛同できる内容であれば参加したい」、11.0%が「募金であれば応じたい」、10.1%が「参加したい」と、全体の8割以上が何らかの形で参加したいと回答した。

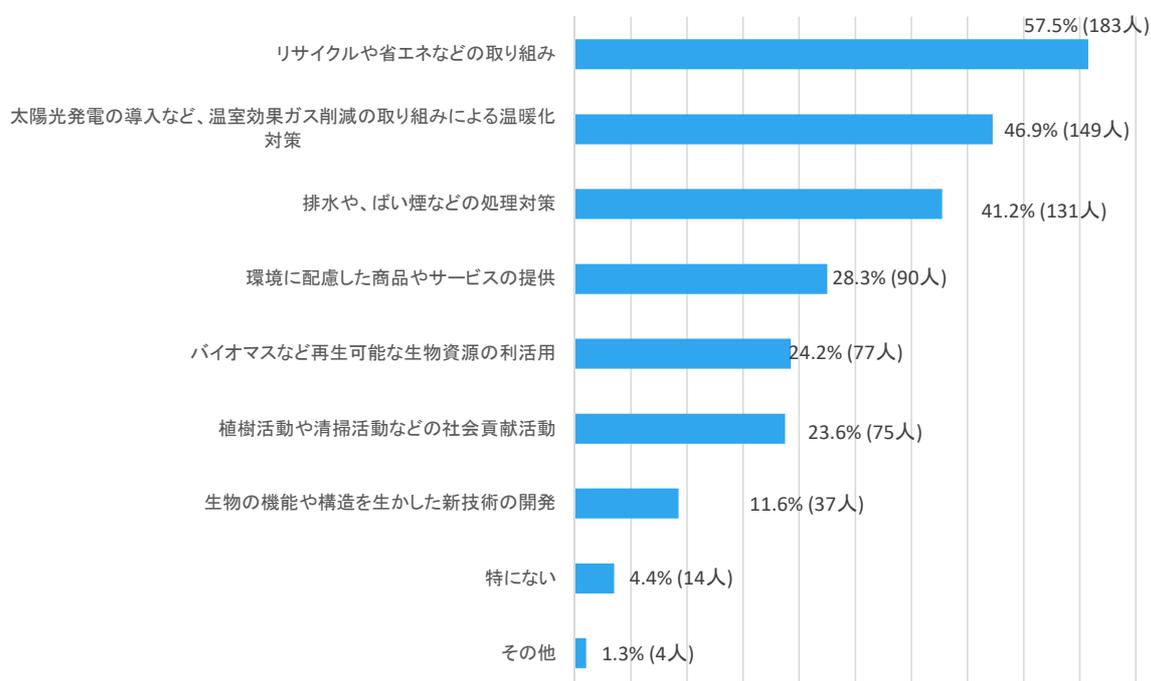
問17 生物多様性の保全のためには、それぞれの地域における多様な主体の連携も必要です。NPO法人等の民間団体にどのような役割を期待しますか？(3つまで選択可)
(回答者：318人)



「地域に固有の自然環境を保全する活動」、「企業や学校が行う自然環境保全活動の取り組みへの支援」、「幅広い層を対象とした、体験学習などの機会提供」の順で回答が多かった。
「特にな

問18 生物多様性の保全のためには、社会経済活動を支える企業の役割も重要です。
企業にどのような役割を期待しますか？(3つまで選択可)

(回答者：318人)



◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・森林伐採など新たな土地の開拓をしない

「リサイクルや省エネなどの取り組み」、「太陽光発電の導入など、温室効果ガス削減の取り組みによる温暖化対策」、「排水や、ばい煙などの処理対策」に多くの回答があった。生物多様性の保全についても、地球規模の環境問題である「地球温暖化対策」による生物多様性の保全に関心があることが読み取れる。

問19 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。(自由記述)

■生物の生息環境の保全について

郡山に越して20年以上で沢山家が建ちだいが環境が変わった印象です。最近のお宅は庭もコンクリート敷きの所も増えてきました。各家庭に樹木を1、2本植えるだけでも環境が変わるのではないかと考えております。また、太陽光発電で山林が無くなり、逆に環境に悪影響を与えているのでは？と心配です。(女性・60代)

自然環境とマッチした都市づくりに尽力をする。(女性・50代)

昔は田んぼに蛍を見ることができましたが、今は見たことがありません。子どもたちが初めて蛍を見たのは水族館でした。郡山でも蛍が見れる環境が整うと嬉しいです。(女性・40代)

今年は熊やイノシシなどが今年は生活圏に多く出現しているので、里山に実のなる樹木を植える活動をしてはいかがでしょうか？林業のなり手育成する。企業がパッケージを環境に配慮する。お惣菜や弁当の容器を簡素化する。企業のごみは資源ごみを分別義務化する。
(女性・30代)

放置による里山などの自然破壊には危惧します。自然が放置されていることで外来種がはびこり、在来種がなくなっていくのは残念です。(男性・70代)

自然は大事ですが、豊田浄水場跡地を公園にするのは反対。すぐ隣に開成山や近隣に既に多数の公園がつくられています。文教エリアとして人気なため、音楽ホールをつくるなど文化的な利用の方が好ましい。(女性・40代)

河川の整備も必要ですが、もっと親しめる(釣りや散歩、ピクニックなど)河川敷にしてほしい。(男性・40代)

■環境教育について

温暖化などの影響も出てきていますので、子どもたちも自然に親しむ機会を増やさなければならぬと思います。(女性・40代)

自然あふれる郡山を次世代につないでいくために、子どもの頃から自然環境について教育していくことが大切だと思います。(女性・40代)

子どもたちへの自然環境教育の充実で、大人も巻きこむような活動を第一に。(男性・40代)

自然を守るための取り組みを意識して、生活していきたいと思います。また、子どもたちにも伝えていきたいです。(女性・40代)

昔に比べて動物や昆虫が少なくなっていると感じているので、未来を背負う子どもたちには、触れ合う機会をもっとつくるべきではと思います。(女性・10代)

郡山市が自然環境、生物多様性について、取り組んでいることを知らなかった。具体的にどの様な活動をしているのか、知りたいと思った。旧市内の公園は主に池など整備されすぎて、生物多様性とは真逆の人工池になってしまい、子どもの頃の自然環境が失われ、とても残念に感じていた。水道局跡地の整備計画についても、生物多様性について考えてほしいと思う。

(男性・60代)

■啓発活動について

即、効果の出る問題ではないと思うので長い考えで対処していただきたい。（男性・70代）

行政からのPR活動をもっと活発にしてください。（男性・70代）

テーマが大きく一人ではできないことばかり。若い人たちを巻き込んで啓発活動から実施していければよいと思う。（男性・70代）

環境政策課が担当ならもっと指導力を持って、目に見える施策を周知させ、市民を牽引してもらいたい。（男性・60代）

もし今回の議題でこつこつと協力または活動してる団体あれば表彰してあげればよいと思われれます。（女性・20代）

最近登山を始め、今年初めて裏磐梯でカヌーを漕ぎました。それを機会に自然保護を強く意識するようになりました。自然の美しさを知るのも自然保護の第一歩になると思います。（男性・30代）

地域公民館の活動として、いろいろな研修事業を推進してほしい。又、そうした活動の中から市民の声を聞いてほしい。（女性・60代）

前にも書いたことがあるのですが、太陽光発電って、どうなのでしょう？、山肌にびっしり木を切り倒して太陽光パネル。生物多様性の保護については、知らない人が多いのではないのでしょうか？、私だけが疎かったのかな？学校とか、町内会でも、啓蒙活動が必要なのではないのでしょうか、。（女性・40代）

生き物、外来種などについて学べる機会があったら参加したい（男性・10代）

■環境のイベントについて

例えば 夏にはたぶん皆さん懐かしい、螢を見る会などを開催して環境保全の重要性を啓発してはどうでしょうか。（男性・30代）

環境汚染は深刻だと思うが、自分一人では限界がある。一人一人の意識の向上を。そのためにもっと注意をひくイベント、告知、等を。（男性・70代）

環境保護活動は大切だと思うが、生活や時間に余裕が無ければ具体的な取り組みができない。また、その思想がある人と無い人が分かれる。里山の保護についても、市中心部への人口の集中、農業人口の減少があるので、生活から切り離されていると思います。かと言って、里山保護のために血税を割くのもコスト面で課題が多いと思います。キャンプや農家体験はブームではあるので、休耕地の活用等を通して、若い世代が田舎地域に足を運ぶきっかけが有るとよいと思います。（女性・40代）

外来種の増加に関わらず、ここ最近は特に都市開発や気候変動により動植物の生息域が急激に変化しているように感じます。動植物の保護はもちろんですが、小さい子どもたちが動植物に触れ合い、楽しいと感じる機会をつくることで未来の環境保護にも繋がると思います。郡山市には自然豊かな公園が複数ありますが、手入れが行き届いておらず市中心部の公園でも外来種のスズメバチを見かけることが増えてきました。そうすると市民の足は遠のいてしまいますし大きな事故が起こりかねません。何事もスピーディな対応が必要だと感じます。（女性・40代）

■外来種について

生態系、外来生物に焦点を当て意見を述べたいと思います。日本は島国のせいか、あまり外来生物の侵入によって生態系が壊される可能性があることに対して関心を持っている人が少ないように感じます。実際、アフリカや中東で起きたバッタの大量発生のように、最悪の場合人間の生活に深刻な影響を及ぼします。それらの国々は、バッタが人間や家畜の食料を食べてしまったことで食糧難になりました。生態系が壊れれば、人間の生活にも影響がでくる可能性があります。深刻な状況にならないためにも、このまま放置してはいけないので、今すぐにでも取り組むべきだと私は考えています。企業や学校等で、生態系の教育を促す、テレビやチラシで生態系の危機を告発する、などの対策が必要だと考えています。一人一人の意識が変わり、生態系を守る責任を持てるようになれば、豊かで住みやすい地域をつくれるようになるのではないのでしょうか。（男性・10代）

福島県の道路でも外来種の植物が目立つようになりました。外来種と知らずに「キレイだね」と会話している残念な親子を見かけました。外来種や自然に及ぼす影響を教育の場などで、さらに周知していくことが必要だと思います。（男性・50代）

■その他

猪苗代湖や公園・道路脇歩道など町内会ボランティア活動で毎日、草刈・除草・落葉・ごみ回収清掃しています。（男性・40代）

多様とはいろいろあることなので、多様性をよいことと前提条件にしてしまうと、問いが無意味なものになってしまう。（男性・30代）

自然環境や生物多様性のアンケート集計後、速やかにその目標にそる活動推進を望みます。（女性・50代）

自然は心も癒されるし、無くしてはならない大切なものだと思います。今後も更に意識して、環境に優しい品物を購入したいと思います！（男性・30代）

結局、一人一人の努力だと思うし公共事業と称して環境破壊をされていて責任を市民に転嫁してないか？の見直しだと思う。（男性・40代）

人が将来にわたって生きていくために必要な環境保全に力を注いでほしい。（女性・30代）

農業経営の効率化のため農薬や除草剤の使用が多い。その為自然環境破壊が進んでいると思う。住民が環境変化に興味がなく気づかない。そしてあきらめている人が多い。（男性・50代）

動植物の消滅危機が見られるようになっていきます。生物が活動できる環境を維持することが大事だと思います。開発や経済活動と環境保護が両立、連携できるような施策を今後は考慮する必要があるといえます。開発と環境保護の両立のためには人間と動植物の間の適度な距離が必要です。計画区域と調整区域の厳格な線引きが求められます。中心地域においても屋上緑化や歩道の公園化等で人間と環境の共存が可能かと思えます。共存することにより、健康的な都市生活につながると思えます。（男性・50代）

植物多様性のための、企業の参入、NPO法人の利用は、特定の団体への税金投入であり、効果が期待できない。むしろ、市として直接駆除する人材を確保し、即実践していくべき。（女性・80代）

経済第一主義を反省すること。（男性・70代）